

令和 6 年 5 月 4 日現在

機関番号：22302

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K19965

研究課題名（和文）都市生活者の美的経験と倫理規範：他者との出会いという観点からの研究

研究課題名（英文）Aesthetic and Ethical Experience of Everyday Life in Cities: The Meaning of Encountering "Others"

研究代表者

青田 麻未 (Aota, Mami)

群馬県立女子大学・文学部・講師

研究者番号：90963330

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、申請者がこれまで行ってきた環境美学研究を基礎としつつ、この課題を解決する理論的研究である。具体的には都市における他者の存在に注目し、生活者が他者と出会う美的経験を通じて都市をどのように解釈し、またその解釈のもとで生きることが生活者にどのような倫理的影響を及ぼすのかを明らかにした。本研究は都市という場に固有の日常的な美的経験の様態を説明し、その倫理的含意までも明らかにすることで、現代の都市づくりをめぐる実践に対して理論的基盤を与える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

都市生活者の美的経験と倫理の接続は、環境美学・日常美学の影響を受けた都市美学の課題のひとつだが、本研究は他者との共生という具体的な倫理規範を提示することでこれを推進する。また本研究は都市という事例に即しつつ、哲学における他者論の進展に寄与する。また都市型環境倫理の一形態を提示することで、倫理学にも寄与する。さらに本研究は、都市美学を媒介にポストコロナの都市構想における文理を問わない学際的協働を促進できることを示す。

生活者の日常生活に注目する本研究の発想は、コンパクトシティやヒューマンスケールなまちづくりなど実践者のあいだで現在特に注目されている考え方と共鳴し、実践的領域に理論的基盤を与える。

研究成果の概要（英文）：This study aims to build a theory explaining our everyday aesthetic experience in cities, based on my previous research on environmental aesthetics. Specifically, it focuses on the presence of "others" in cities and clarifies how residents interpret the city through the aesthetic experience of encountering "others" (not only humans but also other entities such as nature, landscape etc.).

This study also explore the ethical implications of such aesthetic experiences. By explaining the nature of everyday aesthetic experiences specific to urban places and clarifying their ethical implications, this research provides a theoretical foundation for contemporary practices of urban development.

研究分野：環境美学

キーワード：都市 日常美学 ケア 他者論 美的経験 都市の自然 モビリティ

1. 研究開始当初の背景

ボードレールやベンヤミンによるパリ論に代表されるように、都市に関する美学的考察は20世紀までにも多くの蓄積がある。これに対して、芸術中心の美学への反省から我々の日常的な美的経験に注目した環境美学・日常美学の発展を受け、2010年代より欧米を中心に改めて都市美学という分野が興隆している。*Contemporary Aesthetics* 誌上で2020年に特集が生まれ、このテーマに関する国際会議が毎年複数開催されるなど、同分野への注目は高まっている。

Sanna Lehtinenによれば、都市美学には大規模な都市計画的発想に依拠する従来型の「マクロな視点」と、上述の環境美学・日常美学の展開を踏まえ生活者の日常的な美的経験に注目する「ミクロな視点」の2つのアプローチがある(Lehtinen [2020])。マクロな視点は、ある都市全体のイメージについて、主に都市景観の持つ視覚的特徴からその美的側面を考察する。この視点は大規模な都市計画や、象徴的な建築物の建設に関わる人のものである。しかし都市は、実際にそこに住む人が生活を通じて都市を解釈していくことで出来上がり、変化していくものである。ミクロな視点、すなわち都市生活者の日常的な美的経験について考察するアプローチはこの観点をカバーし、都市の構築と変化を新たな視点から分析する。

本研究はミクロな視点をとるものであり、とりわけ生活者が美的経験を通じて都市をどのように解釈するのかを〈他者との出会い〉という観点から考察するものである(ここでの他者は、人間に限られない事物を含む広い概念)。都市はその巨大さと多様性、また絶え間ない変化ゆえに、そこに継続的に居住する人々にとってさえも異質なものを残し続ける場である。都市の中の自然、いつまでも見尽くせずしかも変化し続ける風景、未来といういまだ到来していない時間の予兆——このような他者との出会いに注目することで、都市の日常に固有の美的経験のあり方を解明できる。さらに他者との出会いの美的経験を通じての都市解釈は、生活者が〈都市とは他者との共生の場である〉という気づきを与える点で倫理的影響を持つものであると考えられる。他者との出会いがもたらす美的経験を通じて、生活者はどのように都市を解釈するのか、そして、その解釈にもとづく暮らしのなかで生活者はどのような倫理的变化を被るのか——これが本研究の核心をなす問いである。

2. 研究の目的

本研究の目的を簡潔にあらわすと次のとおりである。都市生活者が他者と出会う美的経験によって、(1)どのように都市を解釈するのか、(2)その解釈を通じてどのような倫理的变化を被るのかを明らかにすること。

本研究は生活者が美的経験を通じて都市をどのように解釈するのかを〈他者との出会い〉という観点から考察するものである。都市はその巨大さと多様性、また絶え間ない変化ゆえに、そこに継続的に居住する人々にとってさえも異質なものを残し続ける場である。都市の中の自然、いつまでも見尽くせずしかも変化し続ける風景、未来といういまだ到来していない時間の予兆——このような他者との出会いに注目することで、都市の日常に固有の美的経験のあり方を解明できる。

さらに他者との出会いの美的経験を通じての都市解釈は、生活者が〈都市とは他者との共生の場である〉という気づきを与える点で倫理的影響を持つものであると考えられる。他者との出会いがもたらす美的経験を通じて、生活者はどのように都市を解釈するのか、そして、

その解釈にもとづく暮らしのなかで生活者はどのような倫理的变化を被るのかを明らかにするのが本研究の目的である。

3. 研究の方法

A.他者との出会いの美的経験を通じた都市解釈 ここでは都市における他者との出会いを3タイプに分け、それぞれの美的経験を通じて生活者が都市をどのように解釈するのかを明らかにする。Aの研究についてはそれぞれ学会発表・論文執筆を行うと同時に、工学や社会学など関連諸領域の専門家を招き、都市美学との接点を提示するワークショップを開催する。

(1)自然 どんなに人工性の高い都市にも、自然と呼べる要素がある。本研究では日本の都市における河川を事例とし、環境美学における現代的崇高論や (Brady [2013])や、都市生態学の知見 (Cocks and Shackleton (eds.) [2021]) を参照し議論を進める。天候による変化の大きい河川環境での美的経験は、時に恐れの入りに混じるものとなる。この美的経験を通じて、生活者が都市を〈完全なる制御を許さない場所〉と解釈することを明らかにする。

(2)技術 技術は都市を制御するものだが、同時に生活者に対して都市の他者的側面を提示する可能性も持つ。ここでは交通網に影響を及ぼす最先端技術を具体例とし、都市美学の先行研究 (Maskit [2018], Lehtinen and Vihanninyoki [2019], Nagenborg et al. (eds.) [2021]) を参照しつつ議論を進める。自動運転車やビッグデータ活用による自転車利用の促進によって、以前の生活では目に入らなかった風景を見出す機会が増える。これによって、生活者が都市を〈偶然の出会いをもたらす場所〉と解釈するようになることを明らかにする。

(3)芸術 都市における芸術の問題は美術館などの制度と関連づけられがちだが、ソーシャリーエンゲイジドアート(SEA)と呼ばれる社会問題を扱う参加型のアートが、都市の共同体の未来を再考する手段として注目を集めている (Meagher [2020])。ここでは Jackson [2011], Helguera [2011]などの SEA 研究を参照し、日本の都市型地域芸術祭を具体例として議論を進める。SEA を通じた美的経験は、都市生活者がその共同体の範囲を拡張し、都市を〈未来世代の居場所〉として解釈可能にすることを明らかにする。

B.他者との共生という都市的倫理規範 Aの研究を通じて明らかになる生活者の都市解釈によって、都市生活者が新たに獲得する倫理規範を明らかにする。Bの研究成果については、国際会議 Philosophy of the City Conference において研究発表のうえ国際誌に英語論文を投稿する。

(1)美的-倫理的経験としての「共生感」 Yuriko Saito によれば、感性と理性が同時に作動する美的-倫理的経験がある(Saito [2007])。本研究はこの主張を援用し、他者と生きる日常の場である都市での美的-倫理的経験を「共生感」と呼ぶことができること、これが人の感性のみならず倫理的主体としてのあり方にも影響すると明らかにする。

(2)共生を志向する主体とケアの倫理 トップダウン式の規範ではなく個別状況下での物事の間を重視するケアの倫理を応用し (Noddings [1984]; [1992]; [2002])、共生を志向する主体が従う規範の内実を明らかにする。これを通じて、都市的生のあり方が明確化される。

4. 研究成果

【2022年度】 2022年度は、自然と技術に特に焦点を当て、都市的美的経験の内実を明らかにすることを試みた。自然については、都市公園を事例とし、都市公園のなかで自然を美的

に経験することが都市生活者の日常に与える影響を検討した。この成果は2023年5月、国際会議 *Designing Everyday Experience* にて発表したのち、論文化する予定である。技術については、都市のモビリティに焦点を当て、さまざまな交通手段を用いて都市の風景を発見する過程について検討した。この成果は、2023年4月、応用哲学会年次研究大会にて発表したのち、論文化する予定である。

【2023年度】今年度は、A部分のなかでもモビリティを通じて都市生活者が馴染みの街のなかに他者的な風景を見出すメカニズムを明らかにし、応用哲学会で研究発表を行い、同学会誌 *Contemporary and Applied Aesthetics* に論文として掲載した。また都市の中の他者としての自然との出会いについても、国際学会 *Designing Everyday Experience* (ブダペスト) にて研究発表を行い、その成果を人文知と都市の再開発をめぐっての論文集に寄稿した(2024年度中に刊行予定)。B部分の成果については、ケアの倫理と美学の接点について、Yuriko Saito, *Aesthetics of Care* (2022) の議論を批判的に検討する作業を進めた。この成果はまだ一般に公開されていないが、2024年6月に開催される *The Conference of Nordic Society of Aesthetics* にて研究発表を行い、その後に同学会誌に投稿することを計画している。

【全体】2023年度を以てこの研究課題の研究期間は終了となるが、以上の状況から、本研究課題は当初の計画のすべてとは言わないまでも、おおむね順調に進んできた。2024年度からはこの研究課題を発展させるかたちで、科研費若手研究の枠での研究計画がスタートするため、今回得られた成果を今後も活かしていく。特に成果が不足していると思われるA部分の「芸術」についても、各地域芸術祭・アートイベントなどでの研究調査を蓄積してきているため、今後かたちにしていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 青田 麻未	4. 巻 15
2. 論文標題 <研究論文(原著論文)>都市のモビリティによる「セレンディピティ」の美的経験 --ネットワークベースの都市的発見--	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Contemporary and Applied Philosophy	6. 最初と最後の頁 85 ~ 109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/287450	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青田麻未	4. 巻 45
2. 論文標題 気候変動と現代アート オラファー・エリアソンを事例として	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 群馬県立女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 青田麻未
2. 発表標題 ジョン・デューイの美的経験論と日常美学 カッレ・プロラッカによる整理を中心として
3. 学会等名 第74回美学会全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 青田麻未
2. 発表標題 都市公園における自然の美的意義：都市生活の時間感覚との関係から
3. 学会等名 ワークショップ「人文知の視点から見た神宮外苑再開発問題」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Mami AOTA
2. 発表標題 The Time of Urban Parks: Aesthetic Experience of Nature in the Life of Tokyo
3. 学会等名 Designing Everyday Experience (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 青田麻未
2. 発表標題 都市におけるモビリティの美的経験ー親しみ、新奇さ、偶然性ー
3. 学会等名 応用哲学会第15回年次研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 青田 麻未
2. 発表標題 都市におけるモビリティの美的経験ー親しみ、新奇さ、偶然性ー
3. 学会等名 応用哲学会第15回年次研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Mami Aota
2. 発表標題 The Time of Urban Parks: Aesthetic Experience of Nature in the Life of Tokyo
3. 学会等名 Designing Everyday Experience (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------